奈良・藤原宮跡

1　所在地　奈良県橿原市高殿町・四分町
2　調査期間　一　一九九三年（平5）四月～八月
　　二　一九九三年八月～一二月
3　発掘機関　奈良国立文化財研究所飛鳥藤原宮跡発掘調査部
4　調査担当者　代表　牛川喜幸
5　遺跡の種類　宮殿・官衙跡
6　遺跡の年代　七世紀末～八世紀初頭
7　遺跡及び木簡出土遺構の概要

一　東方官衙地区の調査（第七一次調査）

本調査は、一九八七年度から大極殿・内裏外郭の東方で継続的に実施してきた東方官衙地区を対象とする調査の一環である。従来の調査では内裏外郭の東辺に少なくとも三つの官衙（掘立柱塀で周囲を画された東西約六六m、南北約七二mの方形を呈する区画）が南北に配置されていたことが明らかとなっていた。今回は、第五八次調査区の東、第六七次調査区の南に接し、三つの官衙区画のうち南端の官衙とその北の官衙との間で、両官衙区画の北辺と南辺にあたる位置を調査した。調査面積は一一〇〇㎡である。

検出した遺構は、古墳時代、七世紀中頃～藤原宮直前期、藤原宮期の三時期に大別され、このうち藤原宮期の遺構はさらに二時期に分けられる。七世紀中頃～藤原宮直前期の遺構には、掘立柱建物一〇棟、溝三条などがあり、また藤原宮期の遺構には掘立柱建物一棟、掘立柱塀四条、溝三条、石敷一面と二つの官衙の間を東西に走る宮内道路などがある。

木簡は、七世紀中頃～藤原宮直前期に属する素掘りの東西溝ＳＤ六六一六から三点が出土した。ＳＤ六六一六は、第五八次調査区から続く幅五〇㎝、深さ二〇㎝の溝で、調査区内中央で南に折れ曲がる。この溝は第五八次調査区内では掘立柱塀ＳＡ六六四五の南雨落溝にあたったが、今回は南端の官衙の北を画する掘立柱塀によって破壊されていたためこの塀を検出できなかった。

二　西方官衙地区の調査（第七二次調査）

本調査は、藤原宮の西南隅にあたる地域で継続して行なわれてきた市営住宅の建て替え工事に伴うもので、第三次調査区の南、第二六・六〇―一五両次調査区の東、第六九次調査区の西北に位置する。周辺の調査では、藤原宮期の小規模な掘立柱建物・塀やそれに先行する時期の条坊遺構・掘立柱建物などとともに、下層で弥生時代の竪穴住居・土坑・溝・柱穴などを検出している。今回も藤原宮期の遺構とともに下層の弥生時代の遺構についても調査を行ない、調査面積は、上層が一〇三〇㎡、下層が一六四㎡となった。

検出した上層遺構は、藤原宮期直前と藤原宮期とに大別され、前

者では西二坊坊間路とその東側溝、掘立柱建物一棟、井戸一基などを検出し、後者には掘立柱建物三棟がある。

藤原宮期直前に属する井戸ＳＥ八〇六一の井戸枠の側板に墨書が存在した。ＳＥ八〇六一は調査区の北辺で検出した井戸で、掘形は東西四・五ｍ、南北四ｍ、深さ三・二ｍの大きさで、井戸枠下段が良好な状態で遺存していた。井戸枠は、長さ二三六～二四〇㎝、幅五五～六三㎝、厚さ四～四・五㎝の板四枚を立て、内側に上下二段に横桟をほぞ留めし、外側も二段に藤蔓で縛って固定する構造である。墨書は北辺の側板の外側中央寄りに書かれていた。井戸からは完形品を主体とした多量の土器と櫛・槌などの木製品や瓢箪、イタチ・カエルの骨などが出土した。

8　木簡の釈文・内容

一　東方官衙地区の調査（第七一次）

東西溝ＳＤ六六一六

(1)　・「召□□□主□□□」
　　・「　　□□□」　　194×(30)×2　081

表裏ともに腐食が著しく進んでいるが、表冒頭の一文字は「召」と明確に判読でき、またそれに続けて双行割書の形式でやや小さい文字が書かれている。従ってこれは召文で、「召」の下に書かれた双行割書部分に「召」の対象となる人々の人名が列記されていたと思われる。また裏の下半部には多数の文字が書かれているが、腐蝕と重ね書きのために判読できない。

他の木簡二点も(1)と同様に腐蝕が進んでおり、判読できないが、うち一点は荷札あるいは付札の形状（長さ一二一㎜幅三九㎜厚さ三㎜、〇三九型式）を呈している。

二　西方官衙地区の調査（第七二次）

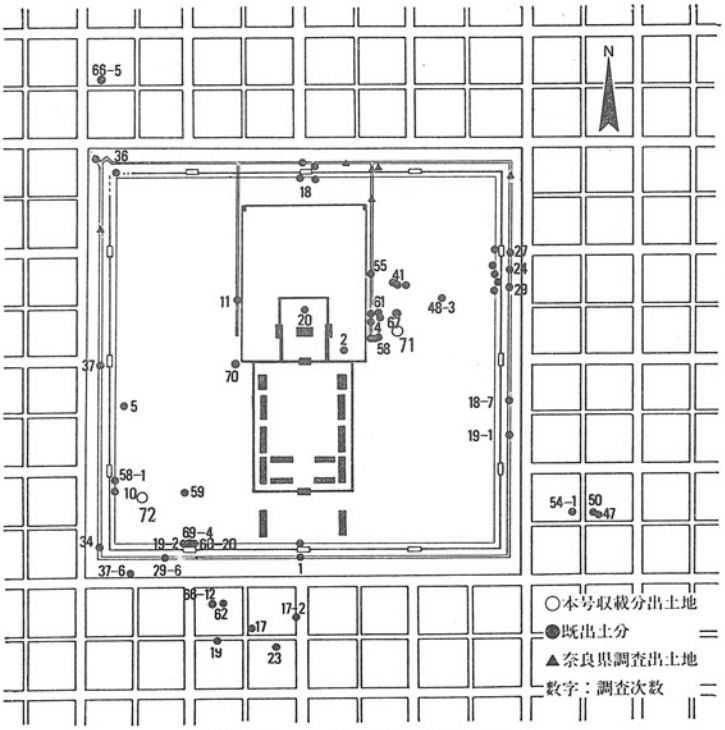
井戸ＳＥ八〇六一

(1)　「□信　」　　2360×630×45　061

9　関係文献

奈良国立文化財研究所『飛鳥・藤原宮発掘調査概報』二四（一九九四年）

（橋本義則）



藤原宮・京跡木簡出土地点略図

木簡研究 第一〇号

巻頭言――木簡学会の十年――　原　秀三郎
一九八七年出土の木簡
概要　平城宮・京跡　興福寺勅使坊門跡下層　藤原宮跡　藤原京跡
藤原京左京九条三坊　紀寺跡　長岡宮跡　長岡宮・京跡　鳥羽離宮
跡　千代川遺跡　矢谷遺跡　大坂城跡(1)　大坂城跡(2)　梶原南遺跡
宅原遺跡（豊浦地区）　長田神社境内遺跡　書写坂本城跡　砂入遺
跡　杉垣内遺跡　清洲城下町遺跡　岩倉城遺跡　勝川遺跡　苅安賀
遺跡　山中遺跡　小町一丁目一〇七番地点遺跡　宮町遺跡　川田川
原田遺跡　光相寺遺跡　妙楽寺遺跡　釜渕遺跡　南古舘遺跡　大楯
遺跡　手取清水遺跡　角谷遺跡　横江荘遺跡　白坏遺跡　草戸千軒
町遺跡　延行条里遺跡　長門国分寺跡　安養寺遺跡　金光寺跡推定
地　博多遺跡群（築港線関係第三次調査）　吉野ヶ里遺跡群　本告
牟田遺跡
一九七七年以前出土の木簡（一〇）
平城宮跡（第四四次）
中世木簡の一形態――山札・茅札についての覚書――　石井　進
雲夢睡虎地秦墓竹簡「日書」より見た法と習俗　工藤元男
木簡の保存処理　沢田正昭
彙報
『木簡研究』六～一〇号総目次
研究集会報告一覧
木簡出土遺跡報告書等目録　寺崎保広
木簡出土遺跡一覧　寺崎保広

頒価　三八〇〇円　〒五〇〇円